

中原通信



文責 増永 善久



○早いもので2月に入りました。

「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」と言われるように、時間が過ぎるのを早く感じる新年です。6年生は、卒業までの時間を有効に計画的に使ってほしいと思います。また、中学校では、1月の私立高校の専願・奨学生入試をかわきりに、2月初旬の公立高校前期入試と本格的な受験のシーズンに入っています。中学校の勤務がほとんどの私は、進路を決めるにあたって、中学生に『「選ばれる人」になりなさい』とよく話をしていました。進路を決めることは、受験生の立場から見れば、「自分が高校を選んでいる」ことになります。しかし、高校側から見ると、「自分の高校に合っている生徒を高校が選んでいる」ことになります。どうしたら『選んでもらえる人になるか』という違った角度から考えるのも、子どもたちが自分の力をさらに伸ばすことにつながると考えているからです。また、自分の力を伸ばすためには、「自分で考え、行動する力」を持つておくことも大切だと思います。このことは、ことある毎に児童の皆さんに伝えていることでもあります。生成AIの広がりや半導体製造のTSMCによる熊本の変化などの例があるように、現在は、変化の激しい社会です。その変化に対応するための一つの大事な力が「自分で考え、行動する力」です。この力が伸びれば、問題解決能力につながっていくと考えています。そのために、深く考え「なぜ？」を繰り返す、書く・話す・行動することでさらに考えを深める、失敗を恐れず、改善策を考えるなど失敗から学ぶなどを子どもたちには、意識してほしいと思います。



◎竹とんぼ・折り紙教室

後援会長さんのご紹介で、国際竹とんぼ協会熊本本部〔愛称「夢トンボHIGO」〕の事務局長と中原校区出身で日本折紙協会の折紙講師のご夫妻を講師としてお迎えし、2月3日(火)のクラブ活動の時間に、「竹とんぼ・折り紙教室」を実施しました。1~4年生は、できあがっている竹とんぼに色づけの体験を、5・6年生は、それぞれが竹を削り、竹とんぼの羽を仕上げる体験をしました。竹とんぼをよく飛ばすためには、竹の羽の角度などが大事だということを知り、算数や理科の学習に結びつくものだとも思いました。また、羽に色づけをし、竹とんぼを仕上げる一方で、折紙でくまモンなどをつくる体験も行われました。竹とんぼが完成したら、校庭に出て、実際に竹とんぼを飛ばしました。講師の先生の竹とんぼを飛ばすデモンストレーションを見て、子どもたちは感嘆の声をあげていました。最後は、「だれが竹とんぼを一番遠くまで飛ばすか」を学級ごとに競いました。各学級で1位になった児童は、講師の先生が作られた竹とんぼを賞品にもらい、とても喜んでいました。



◎放課後子ども教室より

放課後子ども教室では、体験活動ボランティアチームのご指導のもと体験学習も行われています。今年度、子どもたちは、ボッチャなどのニュースポーツを体験したり、ビー玉とアルミはくで不規則な転がり方をするエイリアンの卵を作ったりしました。体験の日は、子どもたちの楽しそうな声が体育館や教室に響きわたっていました。

手のひらの上のエイリアンの卵 →
(不規則な転がり方をします)



※1月26日の給食試食会への参加、ありがとうございました。